

# 南浦遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書

特別養護老人ホーム・デイサービスセンター建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

1993・3

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター



# 南浦遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書

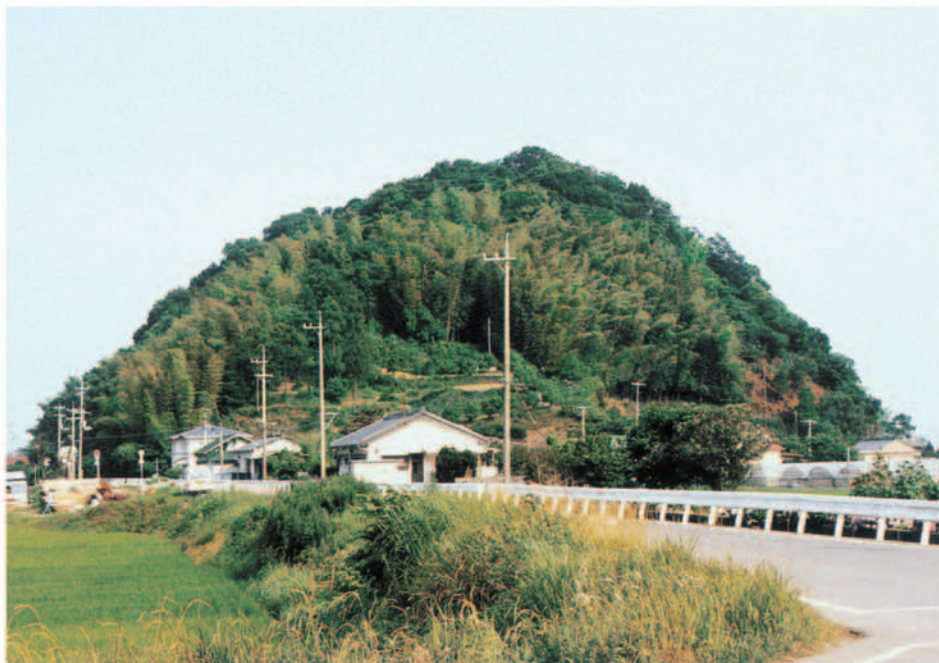
特別養護老人ホーム・デイサービスセンター建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

1993・3

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター







雀ヶ森城跡



広岡井筋



## 序

吾川郡春野町は、高知県の中央部に位置し、霊峰石鎚山に源を発し太平洋へと続く仁淀川の河口の東岸に、豊かな水量により育まれた肥沃な地に恵まれ「土佐のデンマーク」と称される優れた農業地帯となっています。

町内には縄文時代から中世まで、西分増井遺跡・山根遺跡・西畑フケ遺跡・大寺廃寺・吉良城跡・芳原城跡をはじめとする多くの遺跡が所在しており、これまでも関係機関の理解のもと、多くの発掘調査が行われてきました。また、野中兼山による弘岡井筋や、南学発祥の地など多くの歴史を持つ町です。

このような春野町においても近年開発の波は押し寄せており、町内に所在する埋蔵文化財についても開発との調和の中で保護・保存を進めていかなければなりません。南浦遺跡は記録保存として発掘調査が実施されました。その結果、新たな資料とすることができました。この地に、今の人間のために役立つ施設が設けられ、そこでは、古くより、人間の生活が営まれていたということを心に思う機会をお持ちいただければ幸いです。

最後になりましたが、今回の発掘調査を実施するにあたり、御援助、御協力をいただいた関係者の皆様及び地元の方々に厚く御礼申し上げます。

1993年3月

財団法人 高知県文化財埋蔵文化財センター

所長 小橋 一 民



# 例 言

1. 本書は、特別養護老人ホーム建設に伴い、工事計画用地内に所在する埋蔵文化財の記録保存を目的として行った、南浦遺跡発掘調査の記録である。
2. 所在地 高知県吾川郡春野町東諸木2040番地
3. 調査面積 690㎡
4. 調査期間は、平成4年4月14日～6月19日である。
5. 発掘調査は、春野町の委託を受けて、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターが実施した。
6. 調査体制  
庶務 三浦康寛（埋蔵文化財センター主事）  
発掘調査 江戸秀輝（埋蔵文化財センター調査員）
7. 本書の執筆・編集等は江戸が行った。
8. 発掘調査にあたっては、調査区の設定及び遺構の測量については、地形にあわせた任意の4mグリッドを用いて実施した。標高は、海拔高を示した。
9. 調査にあたっては、高知県教育委員会・春野町教育委員会・地元関係者の方々に全面的な協力をいただいた。また、発掘調査及び報告書作成の際には、埋蔵文化財センターの諸氏から協力、貴重な助言をいただいた。また現場作業及び整理作業では下記の方々に協力していただいた。記して感謝する次第である。  
(発掘調査)  
岡田稔夫 加志崎悦子 国沢喜代子 松本明美 山本徳一 吉川正道  
(整理作業)  
小松経子 松木富子 矢野雅 山本裕美子
10. 出土遺物は、高知県文化財団埋蔵文化財センターにおいて保管している。



# 本文目次

巻頭カラー

序

例言、報告書要約

目次（本文目次／挿図目次／写真図版目次）

第Ⅰ章 遺跡周辺の地理的・歴史的環境	1
1 地理的環境	1
2 歴史的環境	1
第Ⅱ章 調査に至る経過及び調査の方法	4
1 調査に至る経過	4
2 調査の方法	5
第Ⅲ章 調査の成果	7
1 基本層序	7
2 検出遺構と遺物	15
第Ⅳ章 考察	23

# 插图目次

第1图：吾川郡春野町位置图 .....	1
第2图：南浦遺跡周辺の遺跡 .....	2
第3图：南浦遺跡調査区位置图 .....	6
第4图：TR 2 遺構平面图・東壁土層断面图 .....	8
第5图：TR 1 遺構平面图 .....	9
第6图：TR 1 南壁土層断面图 .....	9
第7图：C区（TR 3～TR 7）遺構平面图・土層断面图 .....	11
第8图：A区遺構平面图 .....	13
第9图：SD 1（A-B）土層断面图 .....	16
第10图：SD 1（C-D）土層断面图 .....	16
第11图：SD 1（E-F）土層断面图 .....	16
第12图：SD 1（G-H）土層断面图 .....	16
第13图：SD 1-1（I-J）土層断面图 .....	18
第14图：SD 1-2（K-L）土層断面图 .....	18
第15图：SD 1-3（M-N）土層断面图 .....	18
第16图：SD 1-4（O-P）土層断面图 .....	18
第17图：SD 1-5（Q-R）土層断面图 .....	18
第18图：A区遺構断面・遺物出土图 .....	20
第19图：A区遺物出土位置图 .....	21
第20图：出土遺物実測图 .....	27
第21图：出土遺物実測图 .....	28



# 写真図版目次

巻頭図版：雀ヶ森城跡・弘岡井筋

PL1：調査区全景（南東より）・調査前全景と雀ヶ森城跡（南より）

PL2：TR2完掘状況（南西より）・TR1完掘状況

PL3：TR7検出状況・TR6検出状況

PL4：遺物出土状況（11・SD1-3～4間）・（8・SD1-2）

PL5：遺物出土状況（6・SD1）・（10・SD1-3）

PL6：土層断面（SD1・A-B）・（SD1・E-F）

PL7：SD1とSD1-1～SD1-4（西より）・SD1北岸（南より）

PL8：調査区A区全景（東より）・SD1（北西より）

PL9：SD1出土遺物・土師器坏（1・3～6・26）、須恵器碗（7）

SD1-4出土遺物・土師器坏（2）

PL10：SD1-2出土遺物・土師器碗（8）、SD1-1出土遺物・土師器高坏（9）

SD1-3出土遺物・土師器高坏（10）

SD1-3と1-4間出土遺物・土師器高坏（11）・土師器甕（12）

PL11：SD1出土遺物・弥生上器壺（13）、SD1出土遺物・土師器甕（27）

PL12：出土遺物・陶磁器（15～22・24）内面外面

PL13：出土遺物・土製錘（14）、出土遺物・陶器鉄釉碗（23）

出土遺物・備前擂鉢（25）

## 報告書要約

- 1 遺跡名 南浦遺跡 遺跡番号 340056  
遺跡地図 No.23-12 (土佐・吾川ブロック)
- 2 所在地 高知県吾川郡春野町東諸木字南浦2040番地
- 3 立地 新川川東側の低地・雀ヶ森城跡(独立丘陵)の南西側
- 4 種類 弥生時代～近世 集落の一部
- 5 調査主体 (財) 高知県文化財団 埋蔵文化財センター
- 6 調査経機 特別養護老人ホーム・デイサービスセンター建設工事
- 7 調査期間 平成4年4月14日～6月19日
- 8 調査面積 690㎡
- 9 検出遺構 溝状遺構6条、ピット31個、集石遺構1基、石列2条
- 10 出土遺物 弥生土器、土師器、須恵器、染付、その他の陶磁器
- 11 内容要約 南浦遺跡は春野町の南東部に位置する弥生時代から近世にかけての集落の一部であり、北東側には隣接して、雀ヶ森城跡のある独立丘陵が位置する。調査の結果、弥生時代の流路・古墳時代から中世の溝状遺構・柱穴・杭跡や近世以降の川岸の石垣跡と思われるものを検出した。弥生時代の流路からは弥生時代中期の壺が出土し、溝状遺構からは、古墳時代の上師器の高坏・甕・碗などが、また、古代の土師器の坏・須恵器の碗などが、そして、中世の上師器の坏などが出土した。石垣跡の周辺からは近世の陶磁器が出土した。川の近くの遺跡だけあり、土錘の出土もあった。これらより、集落跡の中心は今回の調査区の東側の独立丘陵の斜面下部に広がっていたと考えられる。溝については、この標高約60mの丘陵を源とした水を利用するためのものであったのではなかろうか。また、古墳時代については、祭祀的な性格の可能性も考えられる。

# 第 I 章 遺跡周辺の地理的・歴史的環境

## 1. 地理的環境

春野町は、高知県の中央部、吾川郡の最南東部に位置する。南は土佐湾に面し、北から東は高知市、北西は伊野町、西は仁淀川を挟んで土佐市に接する。北部山地・中央低地・南部山地の3地区からなり、北部は西の吉良ヶ峰(249m)から東の鷲尾山(310m)まで比較的低位の山が連なる荒倉山系で、最高地は烏帽子山(358.7m)である。南部には高森山(143.8m)などの丘陵がある。北部山地は中央を東西に走る仏像構造線によって北半は古生層、南半は中生層からなる。南部山地も中生層である。中央低地の東半は中生層の台地が広がり、西半は仁淀川およびその分流と新川川による土砂の堆積で形成された弘岡平野が開け、多くは自然堤防をなし、標高8~1mである。その弘岡平野の中央を新川川がほぼ東に流れている。土佐湾沿岸には平坦で直線的な砂浜が多い。この弘岡平野は仁淀川の堆積地というように肥沃な地で、とくに近世初期、野中兼山によって新田開発された地として知られる。これが基となって、大正期(1912-26)には優れた農業経営を行い「土佐のデンマーク」と称され、現在も県の代表的な農業地帯となっている。

そして、南浦遺跡のある東諸木は春野町の南東部に位置し、北は愛宕山で芳原・内の谷、東は唐音山で高知市長浜、西は西諸木・甲殿に接し、南は土佐湾に面する。北からの芳原川と西からの新川川は地内西端で一旦合流し、再び甲殿川が南西方に分流する。新川川は長浜川となって地内南端を流れ地内唐音から高知市長浜・御景瀬へ流れ出る。弘岡平野に次ぐ広い耕地があり、稲作とビニールハウス園芸作物を中心とする農業地帯である。

## 2. 歴史的環境

周辺の歴史的環境について、春野町を中心に見ていくと、まず、縄文時代~弥生時代につい



第1図 春野町位置

ては、秋山の山根などの自然堤防には、3,000年前の縄文後期から人々が生活していた。特に縄文時代の石錘の発見により、淡水網漁の存在が推定される。また、山根遺跡では、出土した弥生前期後半の土器の底部に認められた籾跡からこの地での米作の開始が鮮明になっ



No.	遺跡名	種別	時期
1	南浦遺跡	集落跡	弥生～近世
2	宮ヶ森城跡	城跡跡	中世
3	大ノ遺跡	散布地	弥生～中世
4	アケ遺跡	社寺境内	弥生
5	西原遺跡	散布地	弥生～古墳
6	西畑城跡	城跡跡	中世
7	1ノ城跡	城跡跡	中世
8	寺見ヶ谷遺跡	散布地	弥生～古代
9	1ノ遺跡	散布地	古代
10	久保田遺跡	散布地	弥生～中世
11	西ノ原遺跡	散布地	古代～中世
12	龜ヶ原遺跡	散布地	中世
13	東沢本城跡	城跡跡	古代～中世
14	小原遺跡	散布地	中世
15	志保遺跡	散布地	弥生～中世
16	志保遺跡	散布地	弥生
17	中畑遺跡	散布地	弥生～中世
18	安佐遺跡	散布地	古代
19	竹ヶ原遺跡	散布地	弥生～古墳
20	小川遺跡	散布地	弥生
21	松ヶ原遺跡	散布地	古墳～中世
22	松ヶ原遺跡	散布地	弥生～中世
23	大谷遺跡	散布地	古墳～古代
24	方原遺跡	城跡跡	中世
25	松ヶ原城跡	城跡跡	中世
26	八王子遺跡	散布地	中世
27	西谷井遺跡	集落跡	弥生～古代
28	太田遺跡	散布地	弥生～中世
29	馬場本遺跡	散布地	弥生～中世
30	大ノ原遺跡	散布地	弥生～中世
31	山根遺跡	集落跡	弥生～中世
32	和田遺跡	散布地	縄文～中世
33	秋田城跡	城跡跡	中世

No.	遺跡名	種別	時期
34	小野遺跡	散布地	古墳～古代
35	森山南城跡	城跡跡	中世
36	1ノ原遺跡	散布地	弥生～中世
37	森山城跡	城跡跡	中世
38	大泉遺跡	散布地	中世～近世
39	西之芝遺跡	散布地	中世
40	古市遺跡	散布地	中世
41	飯島遺跡	散布地	古代～中世
42	奥谷遺跡	散布地	弥生
43	八幡宮西ノ城跡	城跡跡	中世
44	古長屋敷跡	散布地	中世
45	吉良城跡	城跡跡	中世
46	後田遺跡	散布地	弥生～中世
47	王子遺跡	散布地	弥生～中世
48	大小路遺跡	散布地	弥生～中世
49	西谷遺跡	散布地	中世
50	妙妙寺跡	社寺跡	近世
51	久万遺跡	散布地	弥生～中世
52	ヒコヶ谷遺跡	散布地	弥生
53	木塚城跡	城跡跡	中世
54	下宅尾遺跡	散布地	古代～中世
55	蔵遺跡	散布地	弥生
56	東ノ原北遺跡	散布地	古代～中世
57	東ノ原南遺跡	散布地	古代～中世
58	中ノ原遺跡	散布地	古代～中世
59	内ノ谷城跡	城跡跡	中世
60	瀬止寺跡	社寺跡	中世
61	忠美城跡	城跡跡	中世
62	神田南城跡	城跡跡	中世
63	ゲシノカ路遺跡	散布地	弥生
64	シノカ路遺跡	散布地	弥生
65	高神遺跡	散布地	古墳

第2図 南浦遺跡周辺の遺跡

た。また、その後、西分増井遺跡などでも縄文時代後期からの多くの遺物・遺構が確認された。また、西畑フケ遺跡からは銅矛2本が出土している。古墳時代の遺物が大量に出土した遺跡としては馬場末遺跡などがある。また、第二次大戦中亡失した古墳が弘岡中横手にあったが、そのほかには現在のところ古墳は発見されていない。

春野町西分には現在大寺の地名が残るが、ここからは奈良時代末の寺院瓦などが出土し、大寺廃寺はこの時代の建立と推定される。大寺廃寺は吾川郡唯一の古代の寺院遺跡であることから、当時の中心的地域であり、郡衙関係の寺院とも考えられている。

春野町内の神社の多くは、いずれも自然堤防の一端あるいは扇状地付近の湧水地に位置し、古墳時代からこの時代にかけて、自然堤防や扇状地に集落が発達したことがうかがえる。そして、秋山にある種間寺については、村上天皇が藤原信家を勅使として遣わし、朱雀院の額を与えたのが、康保年間（964～68）のことであったという。創建の伝承は古いが、この頃から火をなしたものと考えられる。

南北朝時代に入り戦火は吾川郡下にも及び、吉良氏が守護領国制下に弘岡中の吉良城を拠点とし、森山氏・木塚氏の3氏により春野町を領有した。戦国時代に入り吉良氏・本山氏・一条氏そして長宗我部氏らの抗争の場となる。本山氏が吉良氏を滅ぼした後、永禄3年（1560）から同6年の間に長宗我部氏と本山氏との争奪戦が行われた。この争奪戦に森山氏・木塚氏もついに没落した。長宗我部元親は弟親貞に吉良氏を名乗らせ、吾川郡南部の押さえとした。戦国時代には中小豪族が興亡を繰返しており、春野町の主要な城に、吉良城のほか、秋山城・雀ヶ森城・森山城・芳原城などがあった。この時期、南浦遺跡のある東諸木は、木塚氏が領有した喜津賀のうちで、永禄年中（1558～70）当地は長宗我部氏と本山氏との合戦の渦中にあり、当時元親は東諸木まで進出し、芳原以西は本山氏の支配下にあった。南浦遺跡に隣接する、諸木八幡宮の西方池上の、標高60m余の小山にある雀ヶ森城跡については、城主は本山氏の属将高橋耆岐守と伝えるのみで、築城年代などは不明。頂上に約500㎡の本丸跡があり、西斜面がやや穏やかなほかは急崖である。

中世末期、吾川郡南部平野の開発は大いに進み、ヒノクチ・ヒノシリなどの地名からみて、小規模な灌漑設備が存在したと考えられる。

関ヶ原の戦い後、山内氏が入国し、中世以来の区画に変革が加えられ、新しい村が定められ庄屋が任命された。新しい村はすでに存在していた村落を近世村としたものであった。これらの村の中で大開発を断行したのが野中兼山である。兼山は仁淀川沿いの自然堤防の灌漑に着手し、八田堰と弘岡井筋を根幹とし、これに仁淀川沿いの堤防を加え、経安元年（1648）から承応元年（1652）の5年間をかけて完成した。この灌漑事業の成功によって吾川郡南部に510haの新水田が誕生した。また承応元年頃、森山村に新川町を建設し、ここで新川落とし、によって弘岡井筋を新川川に接続させ、仁淀川上流の物資を舟運によって城下町に送った。

- 〔参考文献〕 出原恵三『西分増井遺跡群発掘調査報告書』春野町教育委員会 1990年  
『春野町史』春野町 1976年  
『高知県の地名』日本歴史地名大系40巻 平凡社 1983年  
『39高知県』角川日本地名大辞典 角川書店 1986年

## 第Ⅱ章 調査に至る経過及び調査の方法

### 1. 調査に至る経過

南浦遺跡は吾川郡春野町の南東部の東諸木に所在する遺跡で、中世城跡の雀ヶ森城跡のある独立丘陵の直下で、その小山と芳原川（南浦遺跡の南で新川川に合流する）に挟まれる形で、標高1～3m前後の低地の水田に立地している。事前に行われた試掘調査の中で、今回の本調査で確認された溝状遺構SD1の南西よりの部分から古墳時代初頭の土師質の甕と中世の土師質の杯が出土し、遺構は、土坑、溝、柱穴などが検出されていた。そこで、今回、特別養護老人ホーム・デイサービスセンター建設に伴う事前の調査ということで、建設予定地の中でも、試掘の際、遺構及び遺物の確認された部分を中心に、調査が必要と思われる690㎡について本調査を実施することになった。

調査は、春野町より、高知県文化財団埋蔵文化財センターが委託を受け、平成4年4月14日から平成4年6月19日の期間で現場での発掘調査を実施した。



作業風景

## 2. 調査の方法

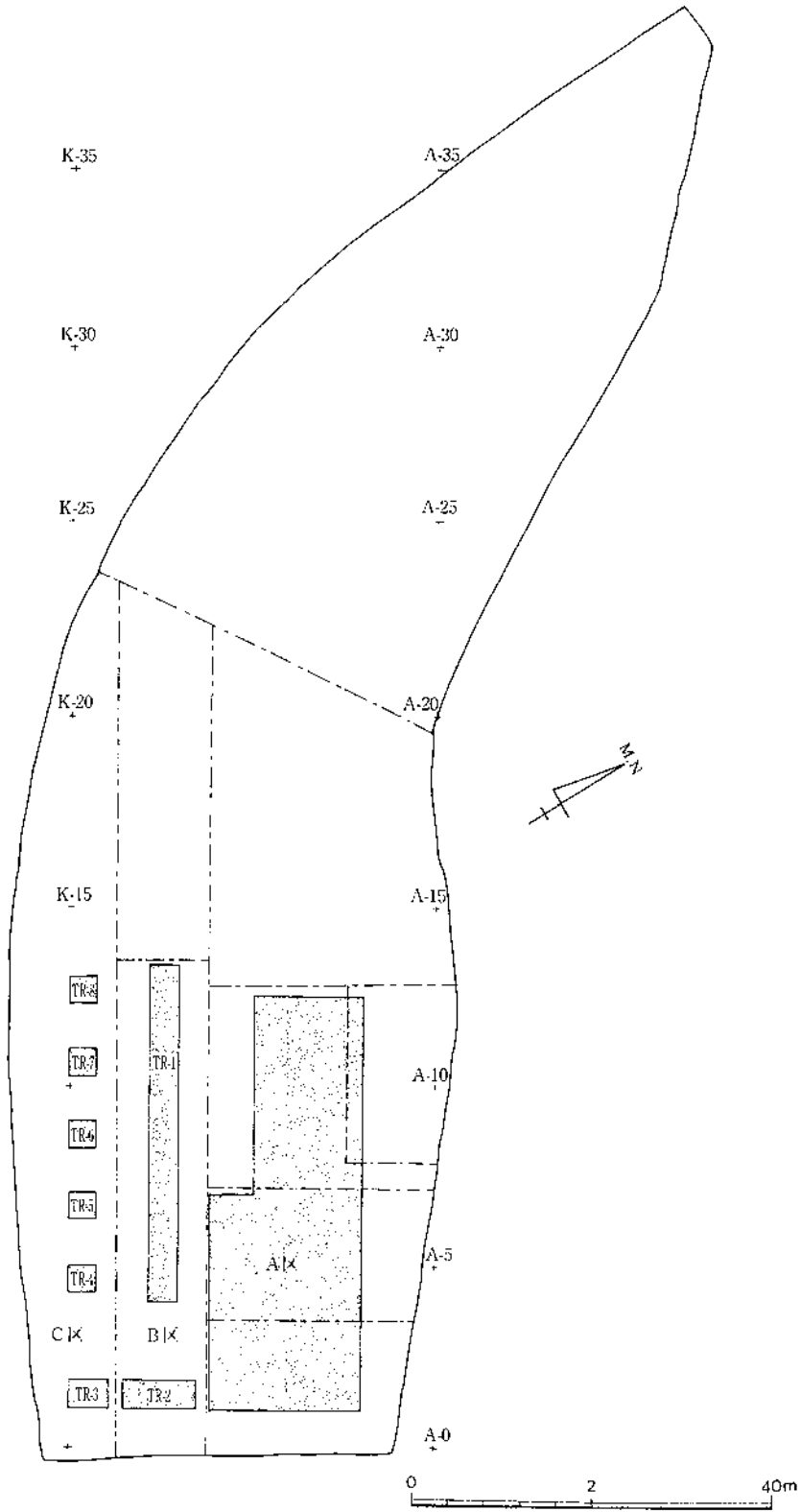
調査は、まず、建設予定地の簡単な測量を行い、調査区の中に一部、盛上をして樹木を植えている部分があったため、まず、樹木の搬出後、盛土の除去を行った。そして、調査区の元の地形（畦・段差・形状など）を考慮して調査区を設定した。調査区は雀ヶ森城跡側より芳原川に向かって順に、A区・B区・C区とし、A区については、試掘で遺構・遺物の確認された場所ということもあり、全面的調査を行うこととし、B区・C区については、トレンチによって確認しながら進めることにした。各調査区とも、まず、パワーショベルにより雑草の除去を行い、それぞれ掘削する場所の設定をした。試掘の際に遺構・遺物とも確認されなかった建設予定地の北西部分については発掘調査は行わないこととした。

A区については、地形に沿わず形で、試掘の位置を含めて、まず、南東半分について全面的に設定した。この範囲を確認した上で遺構の延長を調査する形で、残りの北西部分の調査を実施した。

B区については、TR1は調査区にあわして幅約4m・長さ約40mのトレンチを設定し、TR2はA区から南西方向に延長する形で幅約3m・長さ約8mのトレンチを設定した。

C区については、TR3はB区のTR2同様に幅約3m・長さ約4mのトレンチを、TR4からTR8については、辺約3mのトレンチを調査区の地形に沿わして設定した。

いずれの調査区も、表土及び遺物包含層の上の無遺物層までパワーショベルにより掘り下げる。遺物包含層については人力で掘り下げ、遺構・遺物の検出作業を実施する。検出された遺構は完掘し、完掘状況・土層・遺物出土状況などを1/20で実測し、写真撮影により記録に残す。測量のために調査区全体に4mグリッドを地形にあわせて任意の方向で設定、A～K・O～35を組み合わせる。(同一数字ライン：例A-10とK-10から西へ31°26'40"が磁北となる。) 標高値は、雀ヶ森城跡北側の県道弘岡下種崎線上の水準点を利用し、遺跡測量を行った。



第3図南浦遺跡調査区位置図



## 第Ⅲ章 調査の成果

### 1. 基本層序

A区については、現在の耕作土及び床土を掘削すると、直下の層で遺構を検出することができる。部分的に遺物包含層といえる土層も存在するが大部分は上で言った通りである。土層は上層から順に表現すると次のようになる。

- A区     I：耕作土（灰褐色土）  
           II：床土（灰褐色土・橙色小礫含む、青灰色粘土の部分もあり）  
           III：淡灰褐色粘質土

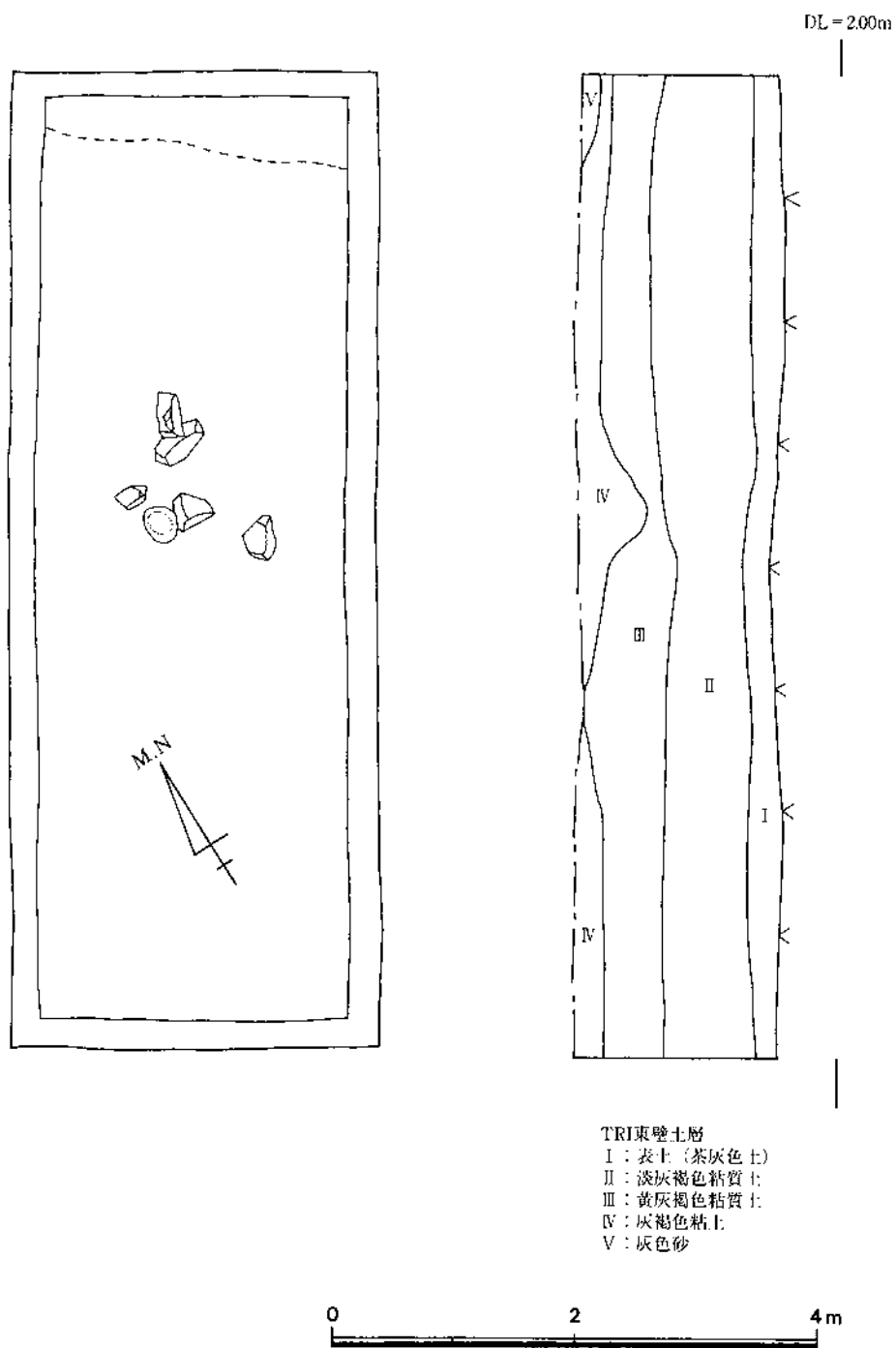
この淡灰褐色粘質土の段階で遺構を確認することができ、後世、耕作地として利用されていた段階で上部が削られていると考えられる。

B区については、TR1南壁土層断面図（第5図）とTR2東壁土層断面図（第6図）から知ることができる。TR2で測量した土層のうちI層・II層については、TR1ではさらに細かく分層している。また、部分的に土色の異なる場合もあった。

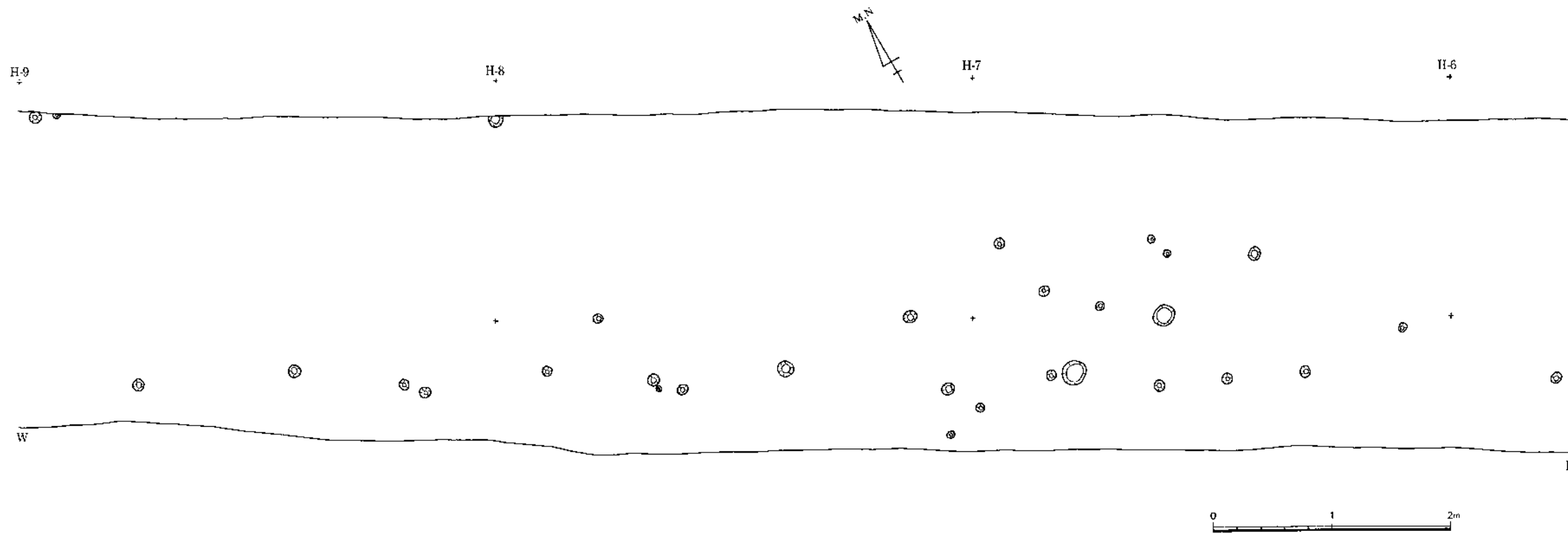
- |    |             |                    |
|----|-------------|--------------------|
| B区 | TR2 東壁土層    | TR1 南壁土層           |
|    | I：表土（茶灰色土）  | I：耕作土（灰褐色土）        |
|    | II：淡灰褐色粘質土  | II：床土（灰褐色土・橙色小礫含む） |
|    |             | III：淡灰褐色粘質土        |
|    |             | IV：灰褐色粘質土          |
|    | III：黄灰褐色粘質土 |                    |
|    | IV：灰褐色粘土    |                    |
|    | V：灰色砂       |                    |

TR1については第Ⅲ層で遺構を検出することができた。TR2については第4層直上で集石状のものを検出した。TR2の第I層がTR1の第I・II層に対応する。TR2の第II層はTR1の第Ⅲ・IV層に対応する。

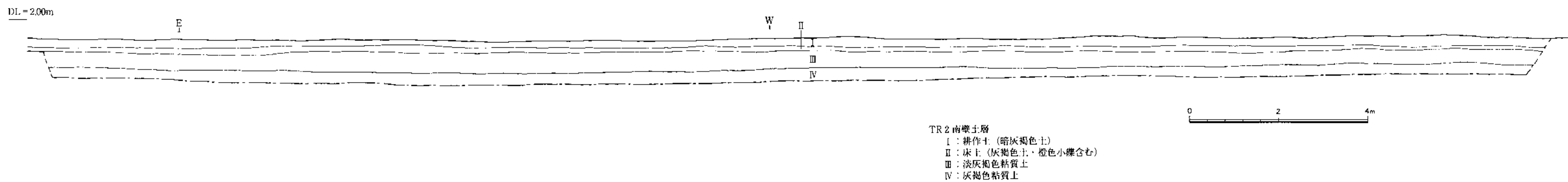
C区については、TR3南壁土層断面図及びTR4からTR7の土層断面図（第7図）から知ることができる。TR3南壁については第Ⅲ・IV・V層については川岸の石垣跡よりも川側の堆積によるもので、第Ⅵ・Ⅶ層については石垣跡よりも山側からの延長の土層である。そして、TR4からTR7の共通な土層断面図での第Ⅲ・IV・V・Ⅵ層については石垣跡より川側の堆積であり、第Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ層については石垣跡より山側および石垣跡よりも下部の土層ということになる。



第4圖 TR2 遺構平面圖・東壁 土層断面圖

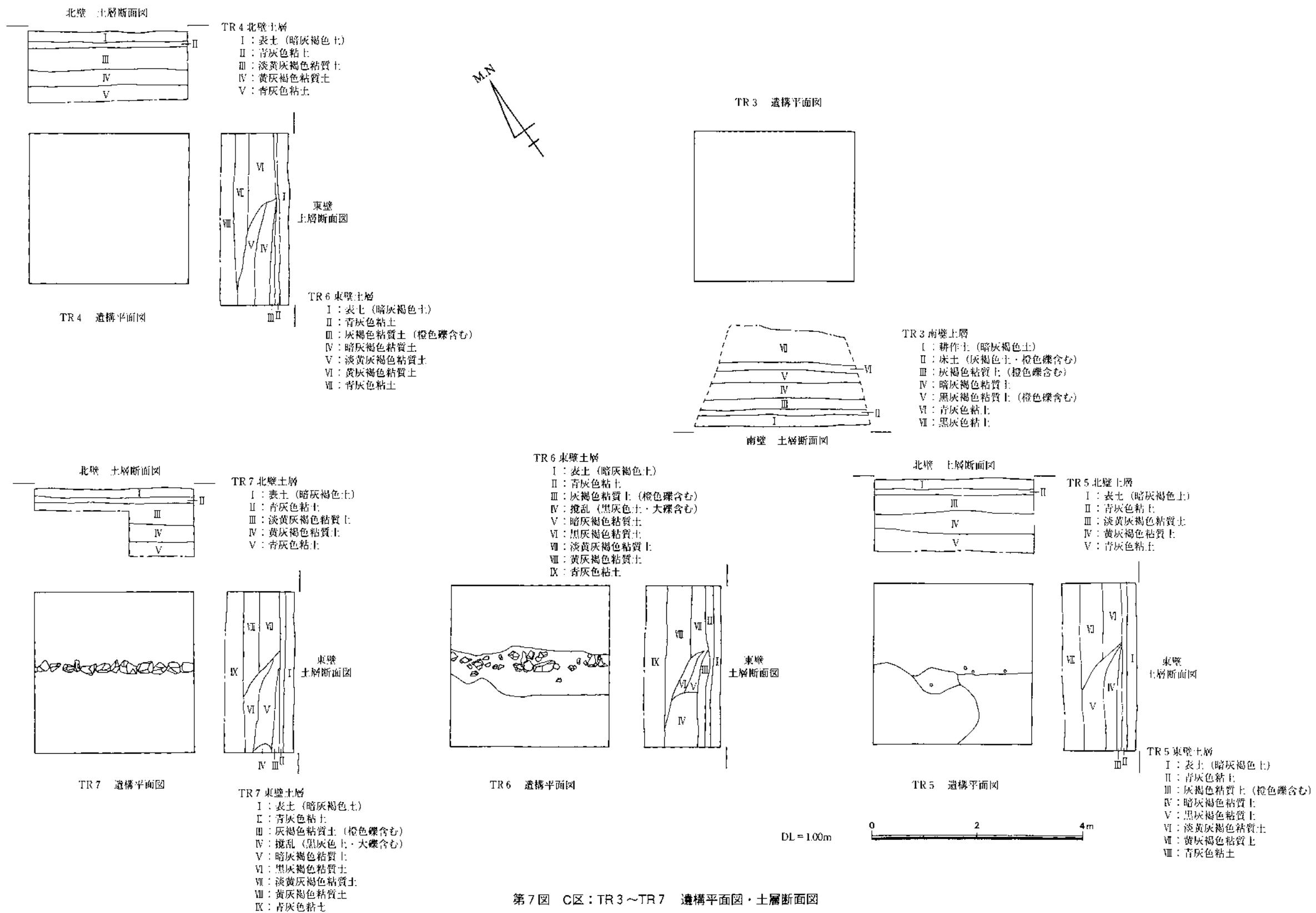


第5图 TR1 遺構平面図



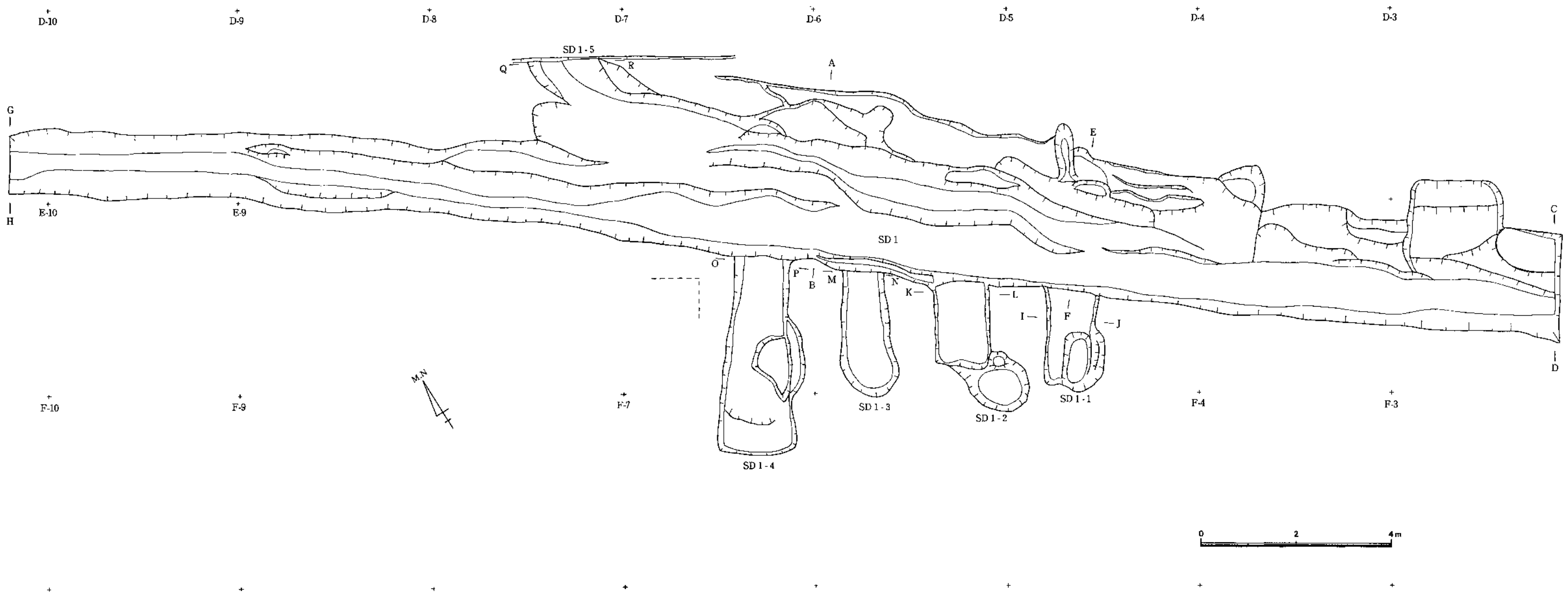
第6图 TR1 南壁 土層断面図





第7図 C区: TR3~TR7 遺構平面図・土層断面図





第8图 A区 遺構平面图





C区	TR3 南壁土層	TR4～TR7 東壁土層
	I：耕作土（暗灰褐色土）	I：表土（暗灰褐色土）
	II：床土（灰褐色土・橙色礫含む）	II：青灰色粘土
	III：灰褐色粘質土（橙色礫含む）	III：灰褐色粘質土（橙色礫含む）
	IV：暗灰褐色粘質土	IV：黒灰色土（大礫含む）
	V：黒灰褐色粘質土（橙色礫含む）	V：暗灰褐色粘質土
	VI：青灰色粘土	VI：黒灰褐色粘質土
	VII：黒灰色粘土	VII：淡黄灰褐色粘質土
		VIII：黄灰褐色粘質土
		IX：青灰色粘土

A区・B区・C区それぞれについては、これまでのその土地の用途や、水などの自然の諸条件により変化が見られ、必ずしも統一されているわけではない。

## 2. 検出遺構と遺物

### (1)A区

#### ①溝跡

##### SD1

E-10近くで幅140cm深さ80cmを測り、E-6付近では幅360cm深さ70cmとなり、E-5とE-4の中間付近で幅300cm深さ90cmとなり、E-2とF-2の中間付近で幅230cm深さ90cmを測る。長さは約40mについて検出した。そのうち溝の左岸E-3からE-6にかけては、階段状に形成された部分を持っている。溝の右岸はほとんどが垂直に近い形状である。また、SD1に流れ込む形で、5条の溝跡（SD1-1～5）が存在する。SD1の遺構埋土の土層については次の通りである。

#### 第9図（A-B）

- I：暗灰褐色粘質土
- II：暗灰褐色粘質土
- III：黄灰褐色粘質土
- IV：灰褐色粘質土
- V：黒灰褐色粘質土
- VI：淡灰褐色粘質土

#### 第10図（C-D）

- I：淡茶色粘質土
- II：茶灰色粘質土
- III：暗褐色粘質土
- IV：暗茶褐灰色粘質土
- V：灰茶色シルト
- VI：淡茶灰色粘質土
- VII：淡灰褐色粘質土

## 第11図 (E-F)

- I : 茶灰色粘質土
- II : 暗灰褐色粘質土 (灰色粘土塊含む)
- III : 暗褐色粘質土
- IV : 淡茶色粘質土
- V : 黒灰褐色粘質土
- VI : 淡茶灰色粘質土
- VII : 淡灰褐色粘質土

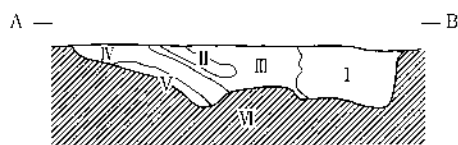
## 第12図 (G-H)

- I : 淡灰褐色粘質土
- II : 茶灰色粘質土
- III : 黒灰褐色粘質土
- IV : 淡灰褐色粘質土
- V : 暗灰褐色粘質土
- VI : 黄灰褐色粘質土
- VII : 淡灰褐色粘質土

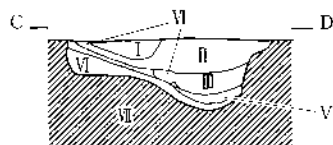
## 出土遺物

弥生時代中期前半の弥生土器：壺、古墳時代の上甗器：甗、古代の土師器：坏、古代の須恵器：碗、中世の土師器：坏などが出土した。遺物の出土位置などは第18図・第19図に表している。

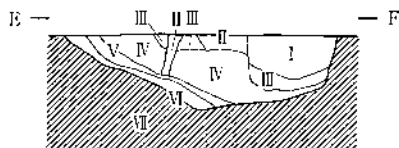
SD1については、遺構埋土の種類と、遺物の出土状況との関係から、遺構の性格や機能時期などを考えることができる。



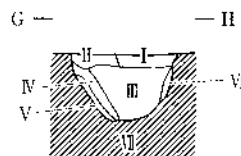
第9図



第10図



第11図



第12図

DL = 1.500m



SD1 土層断面図

## S D 1 - 1

F - 4 と F - 5 の中間から始まり E - 4 と E - 5、これら 4 点のほぼ中央部で S D 1 につながる。幅は 100cm から 140cm 深さは 30cm を測る。遺構埋土の土層は次の通りである。

## 第 13 図 (I - J)

I : 暗灰褐色粘質土

II : 淡灰褐色粘質土

## 出土遺物

古墳時代の土師器：高坏などが出土した。遺物の出土位置などは第 18 図・第 19 図に表している。

## S D 1 - 2

F - 5 から始まり E - 6 方向に少し進み、E - 5 と F - 5 を結ぶラインに平行になる形に曲がり、E - 5 と F - 5 の中間近くで S D 1 につながる。幅は 140cm 深さは 40cm を測る。遺構埋土の土層は次の通りである。

## 第 14 図 (K - L)

I : 暗灰褐色粘質土

II : 淡灰褐色粘質土

III : 淡灰褐色粘質土

## 出土遺物

古墳時代の上師器：碗などが出土した。遺物の出土位置などは第 18 図・第 19 図に表している。

## S D 1 - 3

F - 6 より F - 5 との中間から始まり E - 6 の方向に進み途中 S D 1 につながる。幅は 140cm から 100cm 深さは 30cm を測る。遺構埋土の土層は次の通りである。

## 第 15 図 (M - N)

I : 暗灰褐色粘質土

II : 淡灰褐色粘質土

## 出土遺物

古墳時代の土師器：高坏などが出土した。遺物の出土位置などは第 18 図・第 19 図に表している。

## S D 1 - 4

F - 6 のやや G - 6 よりから始まり E - 6 近くで S D 1 につながる。幅は 180cm から 140cm 深さは 50cm を測る。遺構埋土の土層は次の通りである。

第16図 (O - P)

I : 暗灰褐色粘質土

II : 淡灰褐色粘質土

出土遺物

古墳時代の土師器：坏などが出土した。遺物の出土位置などは第18図・第19図に表している。

SD1 - 5

D - 7 と D - 8 の中間近くから始まり E - 7 近くで SD1 につながる。幅は約200cm深さは90cmを測る。遺構埋土の土層は次の通りである。

第17図 (Q - R)

I : 耕作土 (灰色粘質土)

II : 攪乱 (大小礫・赤土混)

III : 黄茶灰色粘質土

IV : 明黄茶灰色粘質土

V : 灰茶色粘質土

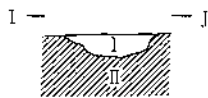
VI : 暗褐灰色シルト

VII : 淡灰茶色シルト

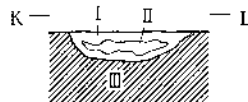
VIII : 淡灰褐色粘質土

出土遺物

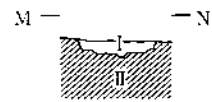
遺物はあまり出土していない。



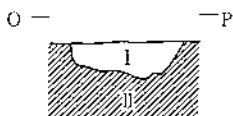
第13図 (SDI-1)



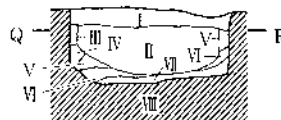
第14図 (SDI-2)



第15図 (SDI-3)



第16図 (SDI-4)



第17図 (SDI-5)

D = 1,500m



SDI-1～SDI-5 土層断面図

## (2)B区

### ①杭跡・柱穴

T R 1 の調査区の中で、I - 6 から I - 9 にかけて30個を検出した。ほとんどが、直径10cmから20cmで深さは15cmから30cmである。遺構平面図は第4図に、土層断面図は第5図に表している。

#### 出土遺物

遺物はほとんど出土しておらず、土師器の破片と陶磁器の破片が出土している。

### ②性格不明

T R 2 において30cmから50cm大の角礫が数個集中して検出されたが、性格は不明で、C区では石垣の跡と思われる遺構が検出されており、同様に石垣に利用されていた石かもしれないが、土層断面などにも、この場所ではそういう痕跡はない。遺構平面図及び土層断面図は第6図に表している。

#### 出土遺物

遺物はほとんど出土していない。

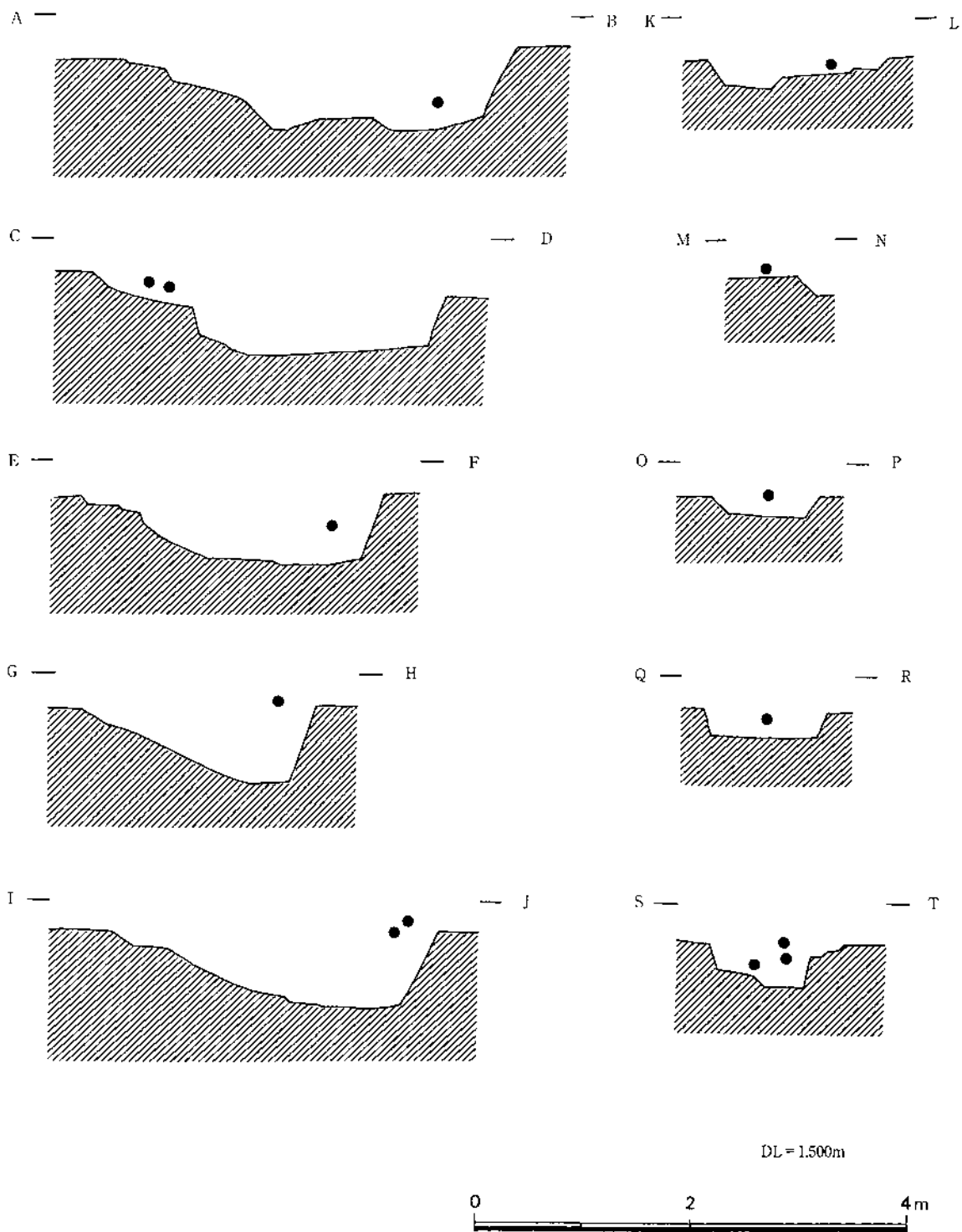
## (3)C区

### ①石垣跡

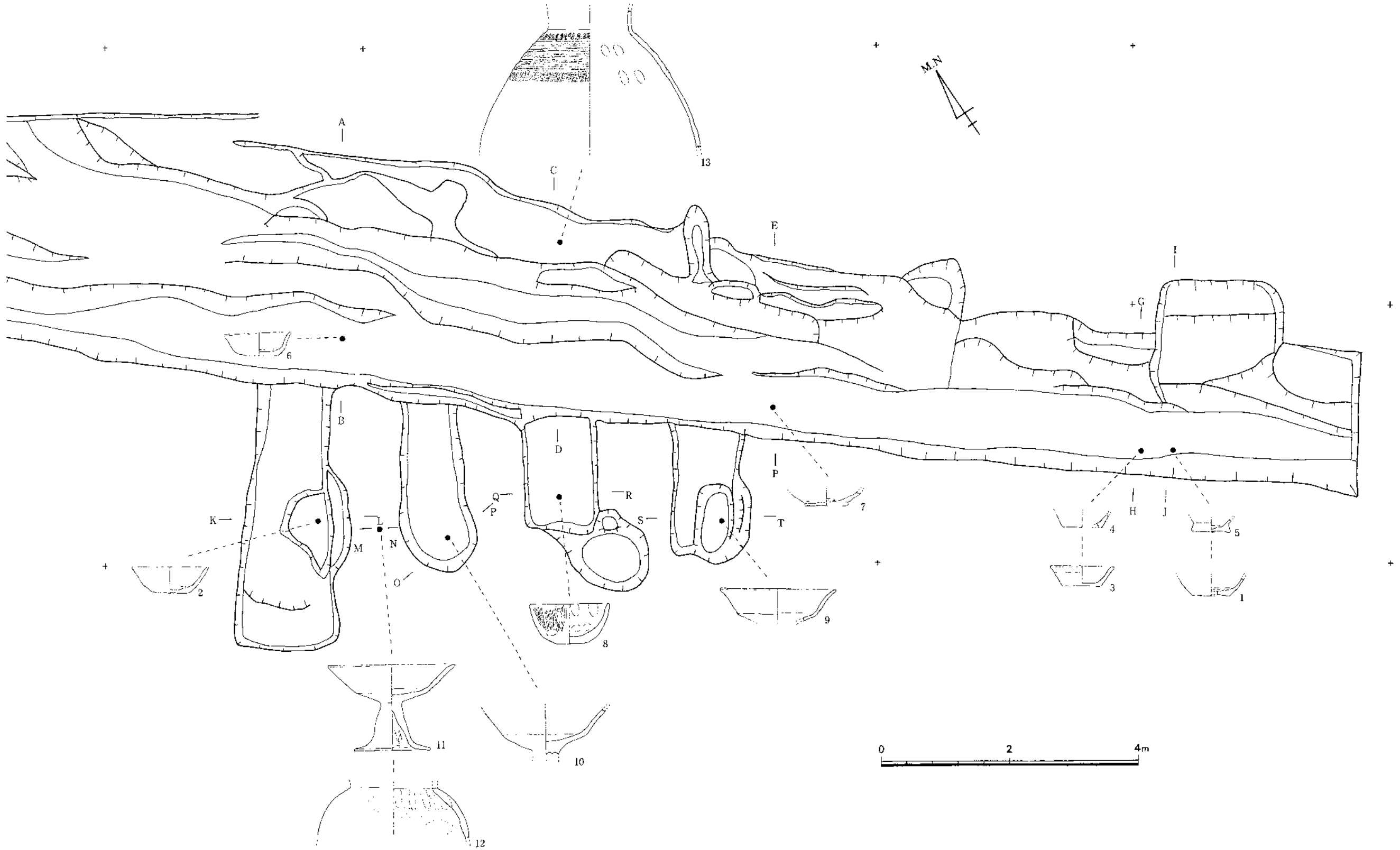
T R 3 からT R 7 までで、検出された石列及び土層断面図を見ると、J - 1 から J - 13 と K - 1 から K - 13 の中間にあたる部分で、岸、石垣であったと判断できる遺構が検出され、中でもT R 6 とT R 7 については石垣による岸であったと判断できる要素となる石も検出されている。石の大きさは30cm前後のものが多く確認された。岸の傾斜はほぼ1 : 1で造られていたと思われる。これらは、現在の芳原川とほぼ平行に並び、距離もほとんど離れていないことから、川岸の跡であると判断する。遺構平面図及び土層断面図は第7図に表している。

#### 出土遺物

近世の陶磁器の破片や、時期はわからないが、土師器の破片などが出土した。



第18 A区 遺構断面・遺物出土図



第19图 A区 遗物出土位置图





## 第Ⅳ章 考 察

ここでは、今回の調査で検出された南浦遺跡の遺構・遺物と、これまで伝えられてきている歴史とを見ていくことにより、南浦遺跡の存続していた時代と、それぞれの時代のこの遺跡の性格と周辺との関係を考えていきたいと思う。検出された遺構はSD1を中心とする溝跡と杭跡、柵列跡、そして石垣跡という、何時の時代においても人々の生活の中の片隅で目にする風景という印象を受ける。

### 1. 南浦遺跡におけるそれぞれの時代とその性格

#### (1) 弥生時代

今回の南浦遺跡の調査で確認した最も古い遺物はSD1で出土した弥生時代中期の甕である。このSD1はこの後、古墳時代から中世まで登場するのだが、ここでは弥生時代に限って見てみると、溝跡というよりは自然流路といったほうが良いと思う。北側に位置する小山からの湧水をこの場所で汲み上げて利用していたのではないだろうか。そして、当時の集落の中心は、この小山の周囲の緩斜面に展開していたものと推測される。

#### (2) 古墳時代

古墳時代に入るとSD1は自然流路から若干人間の手の加わったものに姿を変えつつある。この時代にはSD1本体ではなく、それに接続するSD1-1～4について考える要素が持たれてくる。これらの遺構からは、高坏などが、そこに置かれていたかのように出土しており、水辺の祭祀の可能性も考えてみても良いのではないだろうか。生活に欠かすことのできない水に対して、あるいは広い意味で水と生活との関わりに対して、ここでは、この時代にそういう行為が始まったのではないだろうか。そして、やはりこの時期も居住地の中心は弥生時代同様であろう。

#### (3) 古代～中世

古代になってくるとSD1も自然流路ではなく人為的な溝に姿を変えてくる。このことは、遺物の出土状況と遺構埋土の堆積状況を検討することにより、弥生時代から古墳時代までは流路の岸も比較的緩やかで、自然の恵みとでも言えるようなものを、人により整えられた溝というものに姿を変えている。

そして、中世になりSD1は存続しているようであるが、その頃から周辺の社会情勢は徐々に姿を変えていき、水を患っていた小山も戦国の砦へと変貌するのである。世の中の変化に平行し、小山の周辺の集落も侍の居住地へと移り変わって行った歴史が様々な資料からうかがえる。

おそらく、この小山：雀ヶ森城の周辺は、古来からの人々の居住地の外側は、低湿地や川そのものであったと考えられる。そのような状況下、戦国時代には、激しい戦いが展開した地という記録も残されているようである。

#### (4)近世

世の中も落ち着きを取り戻した近世、SD1は存在していなかったと推測されるが、それに変わり、川岸近くに柵列後や石垣が登場してくる。この時代には、仁淀川に八田堰が造られ、弘岡井筋を通して豊かな水を利用できるようになったことにより、農業が発展し、また水路を利用した運送も盛んになってきている。このような世の中の変化により、南浦遺跡も、それに応じた変身をしているのである。この遺跡の近くには用水から続く新川川が流れ、間近にはそれに続く芳原川が流れている。

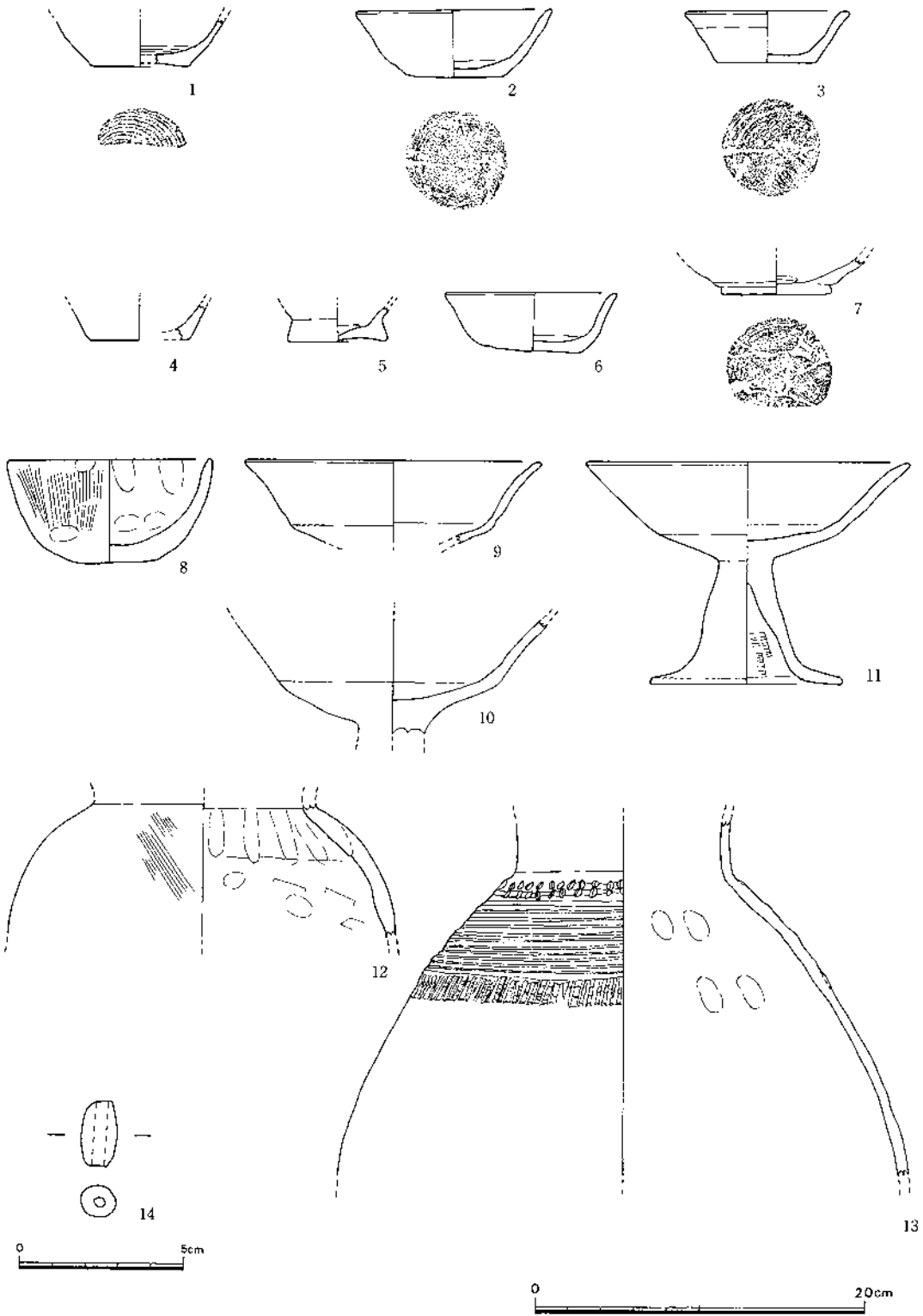
## 2. 時間の流れの中での南浦遺跡

弥生時代から近世に至る遺跡の性格の流れを見ることにより、南浦遺跡はSD1を中心に、社会の変化、人間の生活の変化を物語っており、さらに、それだけではなく、人間の生活の中での、思い、心の移り変わりまでも教えてくれているような気がする。

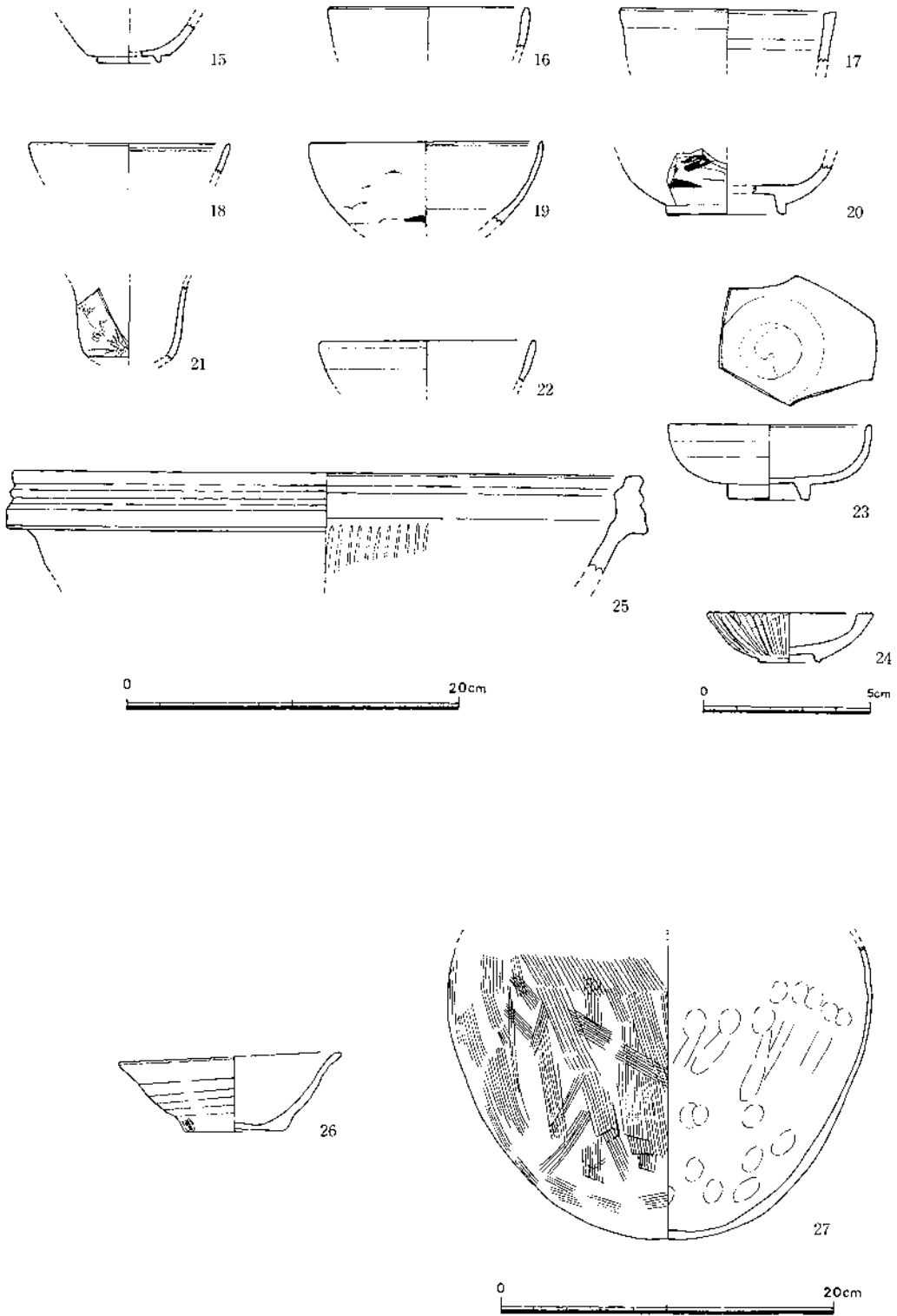
遺物・遺構の量ともにはほんの少ししかない遺跡ではあり、推測という部分が多々あるものであるが、それ故にこれまで述べる事が可能であったのかもしれない。

挿図番号	遺構番号	器種	口径 器高 胴径 底径 法量 (cm)	形態・文様	手法	備考
1	SD 1	土師器 坏	— (2.7) — 6.0	内面はにぶい黄橙。外面は浅黄橙。底部から、体部はやや丸味を持って立ち上がる。	底部は回転系切りである。内面はろくろ目を残しナデ調整。外面はナデ調整。胎土は細かな砂粒を含む。焼成は良い。	
2	SD 1-4	土師器 坏	11.7 4.0 — 6.0	内面は浅黄橙。外面は浅黄橙。底部から、体部は内湾ぎみにやや開いて立ち上がる。	底部は回転系切りである。内面はナデ調整。外面はナデ調整。胎土は精選され砂粒を少量含む。焼成は良い。	
3	SD 1	土師器 坏	10.0 3.0 — 6.0	内面は橙色。外面は橙色。体部はやや外反ぎみに立ち上がり、口縁部が外反する。	底部は回転系切りである。内面はナデ調整。外面はナデ調整。胎土は精選。焼成は良い。	
4	SD 1	土師器 坏	— (2.0) — 6.0	内面はにぶい黄橙。外面はにぶい黄橙。底部から、あまり開かず立ち上がる。	底部の切り難しは不明である。内面はナデ調整。外面はナデ調整。胎土は精選され細かな砂粒を少し含む。焼成は良い。	
5	SD 1	土師器 坏	— (2.0) — 6.0	内面は浅黄橙。外面は浅黄橙。底部は円盤状高台で底裏はやや上げ底ぎみである。	内面はナデ調整。外面はナデ調整。胎土は精選。焼成は良い。	
6	SD 1	土師器 坏	10.4 3.5 — 6.0	内面は橙色。外面は橙色。体部は内湾ぎみに立ち上がり、口縁部で少し外反する。底部はヘラ切り後、底部脇を調整する。	底部は回転ヘラ切りである。内面はナデ調整。外面はナデ調整。胎土は精選。焼成は良い。	
7	SD 1	須恵器 碗	— (2.1) — 6.6	内面は灰色。外面は灰色。断面は灰色。円盤状高台である。	底部は回転系切りである。内面はナデ調整。外面はナデ調整。胎土は精選。焼成はあまり良くない。	焼成段階で黒色化。
8	SD 1-2	土師器 碗	12.4 6.3 — —	内面はにぶい橙。外面はにぶい橙。底部はやや丸底に近い平底で、体部は丸味を持って立ち上がる。	内面はヘラ削り・ハケ調整のうえナデ調整。外面は細かいハケ調整。胎土は細かな砂粒が多い。焼成は良い。	
9	SD 1-1	土師器 高坏	18.0 (4.9) — —	内面は橙色。外面は淡橙色。坏底部で内湾し、わずかに稜線を有し、立ち上がり、口縁部は外反し、開く。	内面はナデ調整。外面はナデ調整。胎土は砂粒を少量含む。焼成は良い。	
10	SD 1-3	土師器 高坏	— (7.0) — —	内面は橙色。外面は橙色。坏部は外反ぎみに大きく開く。稜線をわずかに残す。	坏部は、外面は一部ハケ調整とナデ調整。他部はナデ調整。胎土はやや大きめの砂粒を含む。焼成は良い。	
11	SD 1-3 と 1-4 間	土師器 高坏	19.8 13.3 — 11.6	内面は橙色。外面は橙色。坏部は外反ぎみに大きく開く。稜線をわずかに残す。脚部は、柱下部はふくらみをもち、すそ部はベタ状になる。	脚注下部内部はハケ調整。坏部は、外面は一部ハケ調整とナデ調整。他部はナデ調整。胎土はやや大きめの砂粒を含む。焼成は良い。	
12	SD 1-3 と 1-4 間	土師器 甕	— — (23.6) — —	内面は橙色。外面は明黄褐色。脚部の上部から、肩部への部分で、球面状に強く張る。器肉は全体に厚めで、5mm～10mmである。部分的にかかりがある。	内面はヘラ調整・ナデ調整。外面はハケ調整・ナデ調整。胎土は大粒の砂を含む。焼成は良い。	
13	SD 1	弥生土器 壺	— (21.7) — —	内面はにぶい黄褐色。外面はにぶい黄褐色。頸部部境に扁平な粘土帯を2条添付し、その上に浮文を添付。上脚部に4帯の櫛描直線文を施し、櫛描直線文帯の下に巾広い粘土帯を添付しヘラ状原体で細かく刻み、更に1～3条の沈線文を施している。	外部はナデ調整。内部はナデ調整。胎土は大粒の砂を多く含む。焼成は良い。	

挿図 番号	遺構番号	器 種	口径 器高 胴径 底径 法量 (cm)	形 態 ・ 文 様	手 法	備 考
14		土製鉢	全長 3.9 全幅 1.2 全厚 2.0 孔径 0.7 重量 12.5g	内面は灰白色。外面は灰白色。筒形の土鉢。	胎土は精選。焼成はあまり良くない。	
15		小杉茶碗	— (2.5) — 3.6	内面は灰白色。外面は灰白色。小振りの碗で、底脇を直線的に削り、高台を付す。底裏以外に灰釉がかかっている。	胎土は、半磁器である。焼成は良い。	
16		褐釉筒碗	12.0 (2.5) — —	内面は褐色。外面は褐色。内面・外面ともに艶のある褐色の釉がかかっている。	胎土は、半磁器である。焼成は良い。	
17		香 炉	13.0 13.0 — —	内面は灰白色。外面はオリーブ色。外面に褐釉がかかる。内面は露胎。	胎土は精選。焼成は良い。	
18		茶付碗	12.0 (2.2) — —	内面は明緑灰色。外面は明緑灰色。口縁部内面に二本の輪線。	胎土は、半磁器である。焼成は良い。	
19		茶付碗	10.0 (4.9) — —	内面は灰白色。外面は灰白色。外面に草と雁の文様、見込み内に輪線。	胎土は精選。焼成は良い。	
20		鉄絵碗	— (3.0) — 7.0	内面は灰白色。外面は灰白色。丸碗で、全面に灰色の釉がかかり、外面に黒色の絵付け。	胎土は精選。焼成は良い。	
21		茶付碗	— (4.3) — —	内面は灰白色。外面は灰白色。外面に草花文。	胎土は精選。焼成は良い。	
22		鉄釉茶碗	13.0 (2.5) — —	内面は褐色。外面は褐色。内外面に褐色の鉄釉。	胎土は精選。焼成は良い。	
23		鉄釉碗	12.2 4.4 — 4.8	内面は黒褐色。外面は黒褐色。見込みは蛇の目釉ハギ。	胎土は妬器質。焼成は良い。	
24		紅 皿	5.0 1.4 — 1.8	内面は明緑灰色。外面は明緑灰色。外面に放射状の文様。	胎土は精選。焼成は良い。	
25		備前搦鉢	38.0 (6.0) — —	内面は灰褐色。外面は灰褐色。口縁は段状に肥厚する。内面には巾広の条線。	胎土は、砂粒を多く含む。焼成は良い。	
26	SD 1 (試掘時)	土師器 環	13.3 4.4 — 6.0	内面は橙色。外面は橙色。底部から外傾きみに立ち上がり、さらに、口縁部近くで外反する。	底部は回転糸切りである。内面はナデ調整。外面はろくる目を残している。胎土は精選。焼成は良い。	
27	SD 1 (試掘時)	土師器 甃	— — (26.6) —	内面は橙色。外面は橙色。丸底で、ほぼ球状の形態。全体に器肉は薄く、2mm～7mmである。	内面は、ヘラ削りのうえに、ナデ調整。外面は、全面細かいハケ調整で、一部ナデ調整。胎土は、細かな砂粒を含む。焼成は良い。	



第20図 出土遺物実測図



第21図 出土遺物実測図

## 写真図版







調査前全景（南東より）



調査前全景と雀ヶ森城跡（南より）



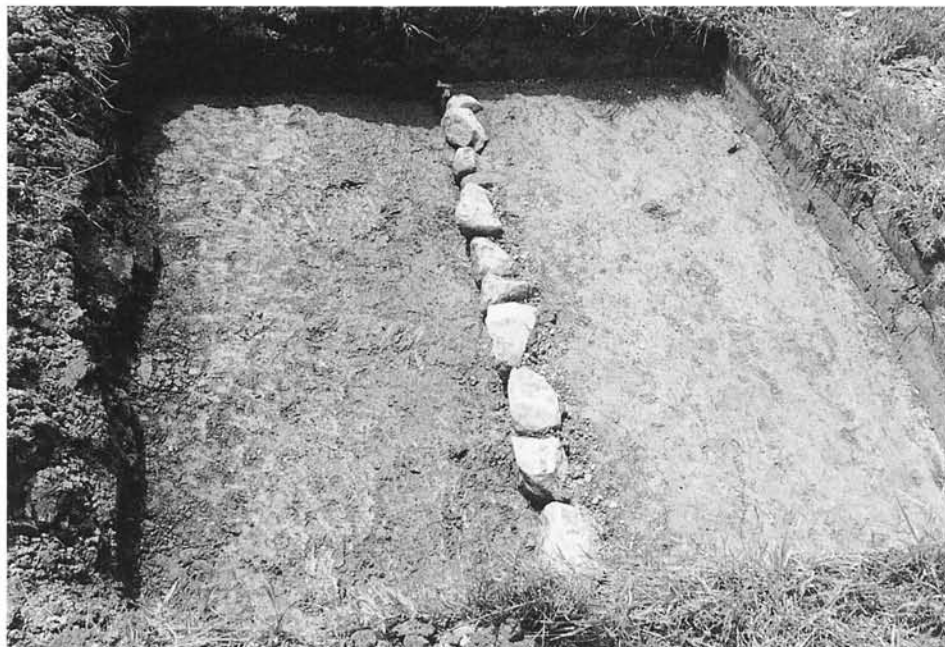


TR2 完掘状況（南西より）



TR1 完掘状況



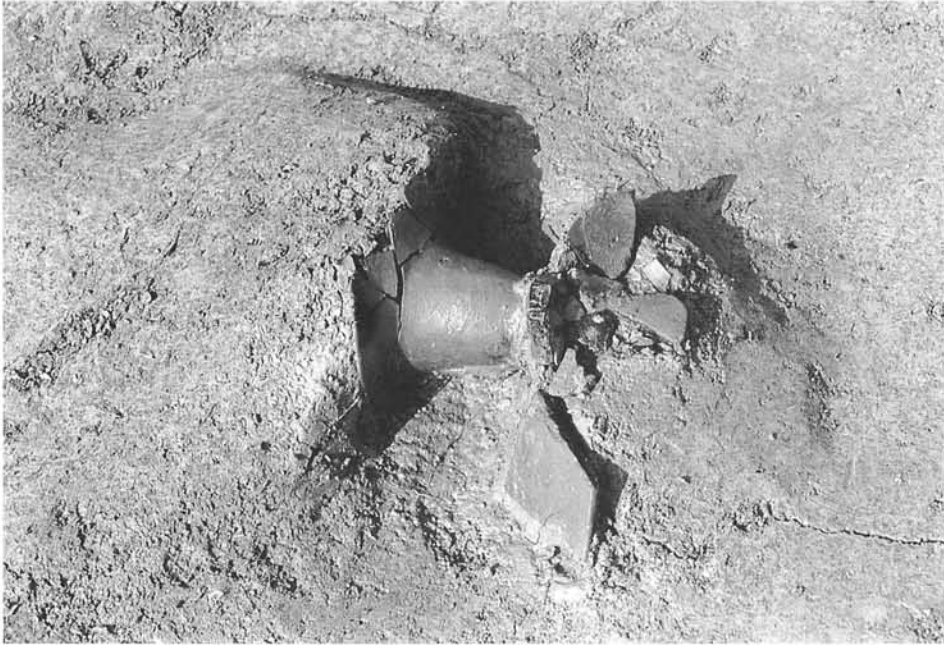


TR7 検出状況

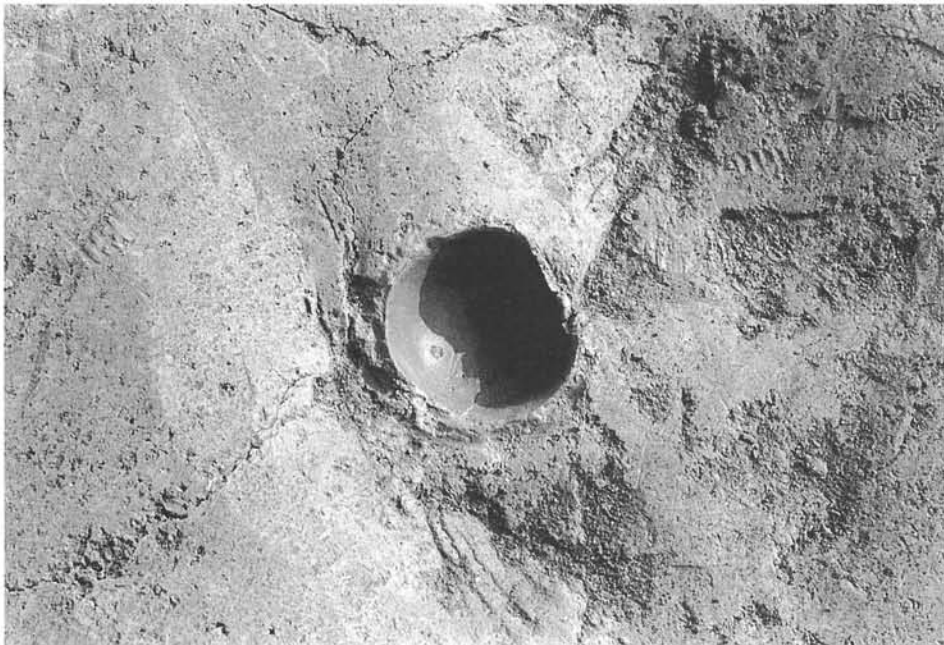


TR6 検出状況





遺物出土状況（11、SD1-3~4間）



遺物出土状況（8、SD1-2）







遺物出土状況 (6、SD-1)



遺物出土状況 (10、SD1-3)



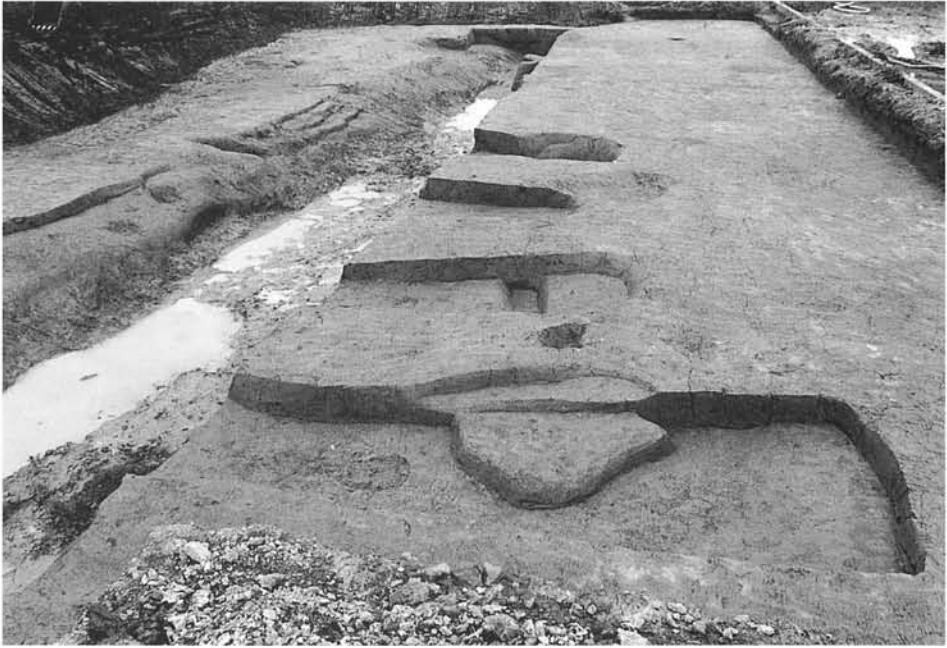


土層断面 SD-1、A-B



土層断面 SD-1、E-F





SD1とSD1-1～SD1-4 (西より)



SD1 北岸 (南より)





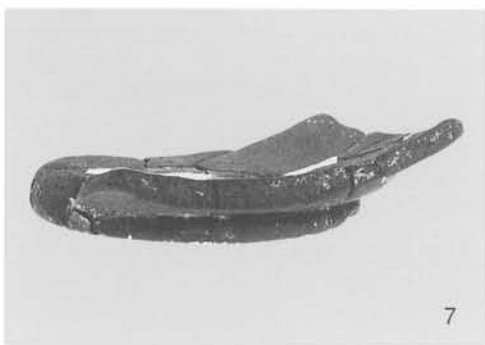
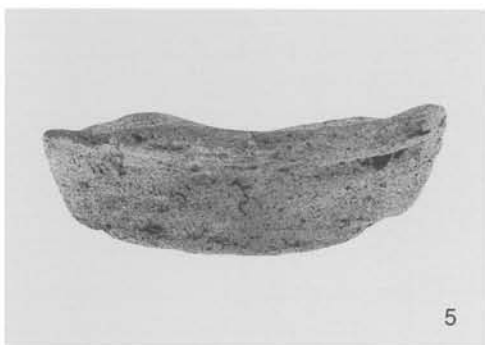
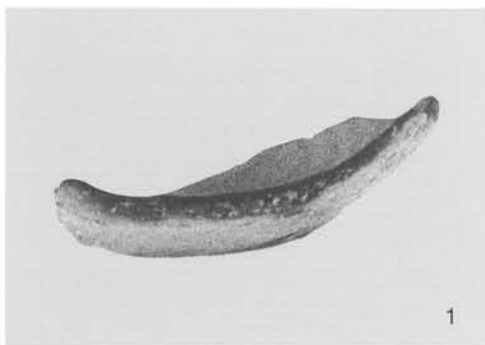
調査区A区全景（東より）



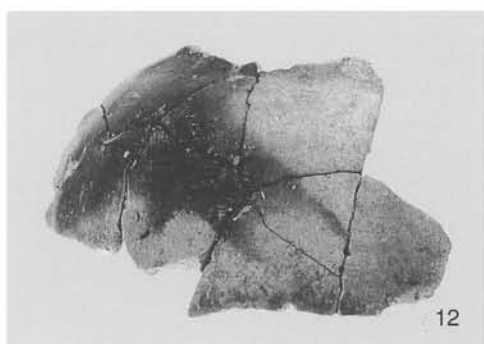
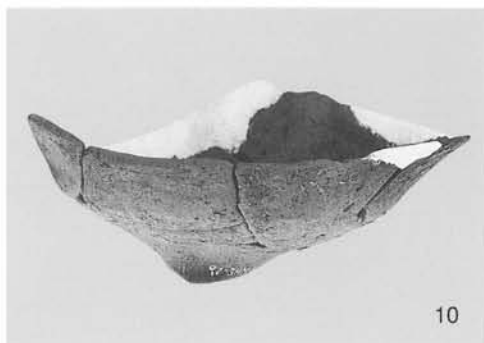
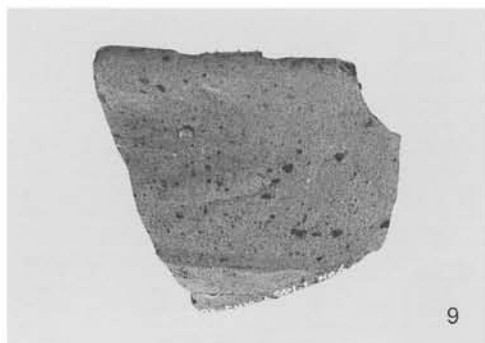
SD1（北西より）



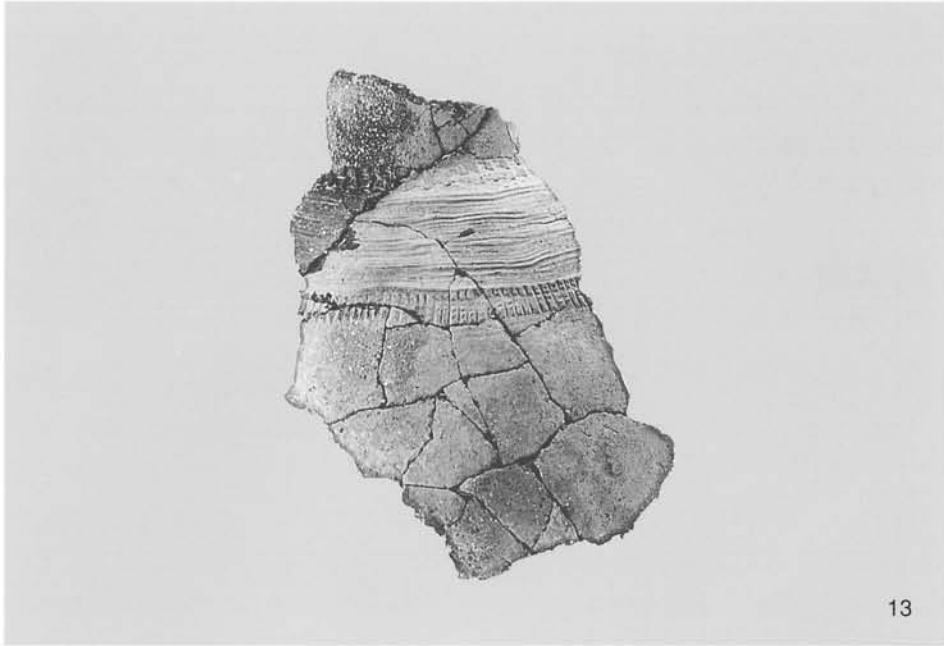




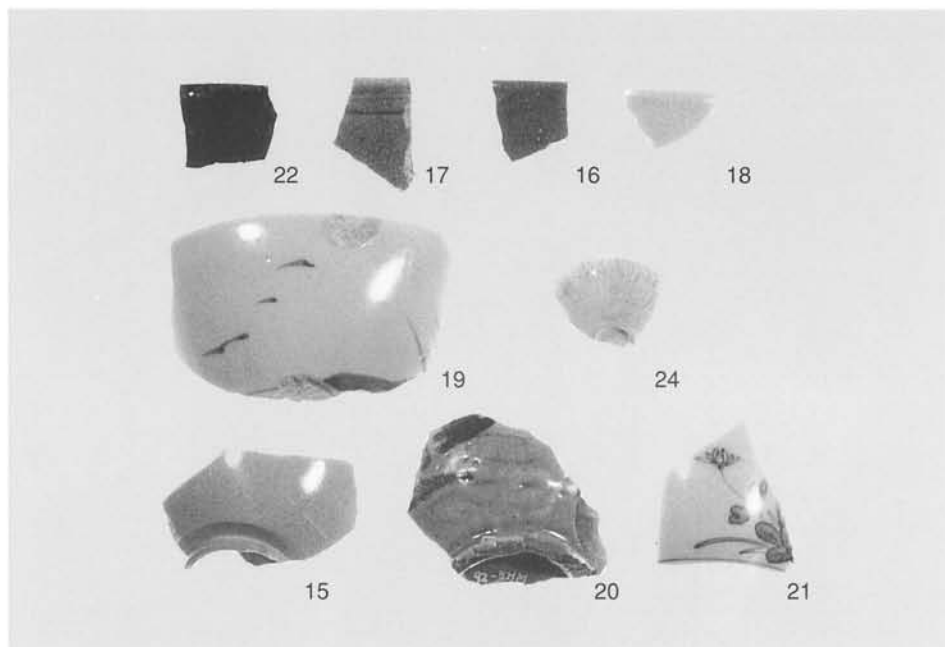




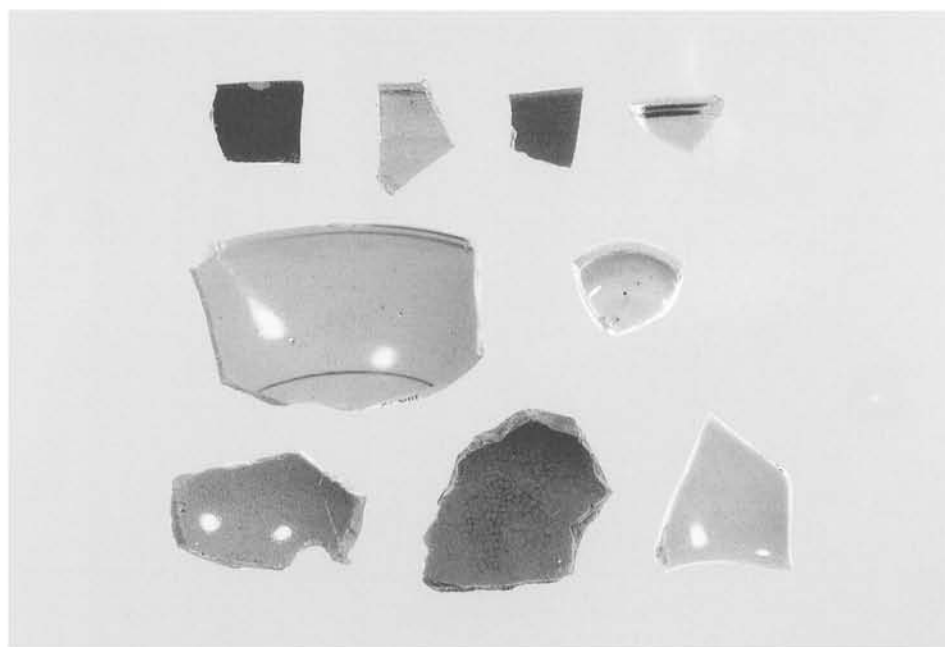








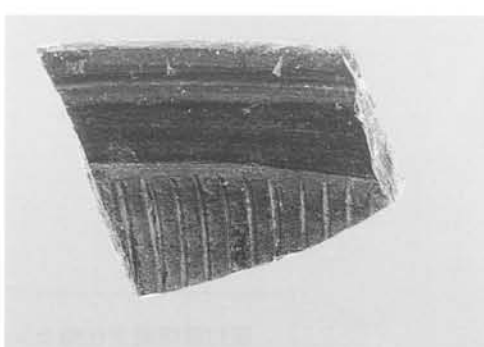
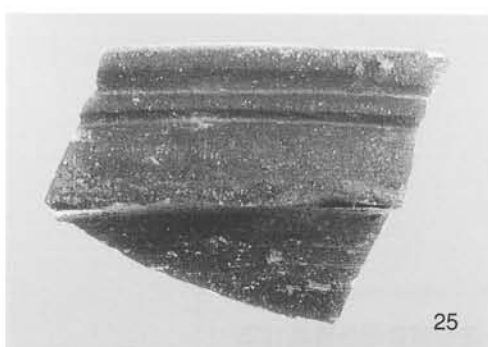
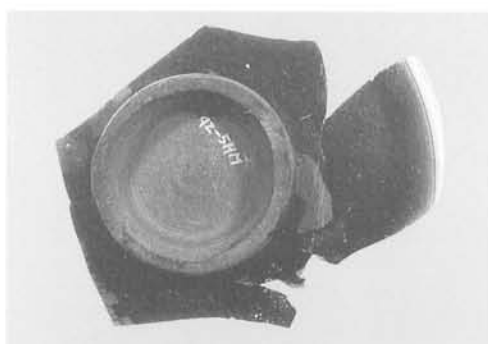
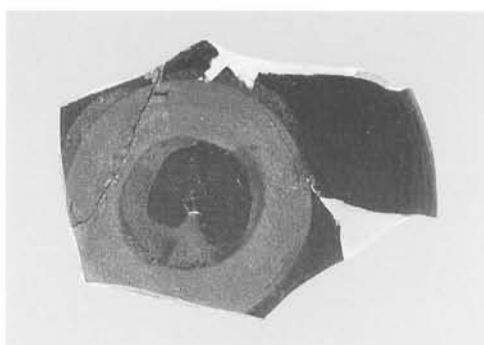
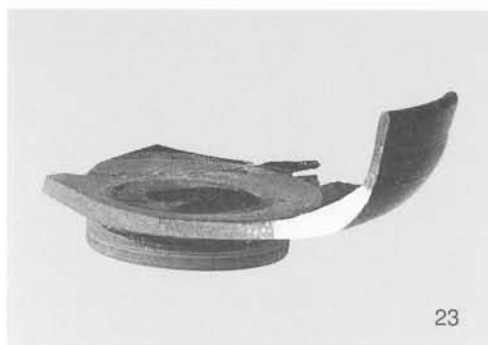
出土遺物・陶磁器（外面）



同上（内面）







出土遺物

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第12集

南浦遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書

特別養護老人ホーム・デイサービスセンター建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

1993・3

発行 高知県文化財団埋蔵文化財センター  
高知県南国市篠原南泉1437-1  
TEL 0888-64-0671

印刷 有限会社 飛 鳥  
高知市針木東町21-18  
TEL 0888-44-6022